

## [成果情報名]ビブナム「スノーボール」の仕立て法と出荷延長技術

[要約]ビブナム「スノーボール」は萌芽期に 80～120cm で台付けし、数年かけて約 10 本に台の本数を増やすように管理すると枝の着花数が向上する。また、萌芽期の切り枝を 1℃で生けて貯蔵し、その後常温で開花させて出荷期を延長することができる。

[キーワード]花木、ビブナム、スノーボール、台付け、切り枝抑制

[代表連絡先]電話 0125-28-2800

[研究所]道総研花・野菜技術センター・研究部・花き野菜グループ

### [背景・ねらい]

枝物花きは露地で省力的な栽培ができるため、転換畑などで栽培が増加している。ビブナム「スノーボール」(以下「スノーボール」とする)は季節感のある花材として期待されているが、仕立て法などが確立されておらず、着花数の減少などが問題となっている。また、開花が集中する品目であることから、出荷期の分散に対するニーズが急速に高まっている。そこで「スノーボール」の生育特性を明らかにし、収量・着花性の安定した栽培法を確立して栽培マニュアルを作成するとともに、出荷時期を延長する開花調節技術を検討する。

### [成果の内容・特徴]

1. 3～5年生株では萌芽期に 80cm で台付け<sup>\*1</sup>すると、当年枝<sup>\*2</sup>の花芽数が最も多くなる(表1)。5年生株の場合、80cm 台付けは新しい枝の発生が少ないため、6年生以降の株では収穫後の台付けとなる。
2. 6～8年生株で 80、100、120cm の台付けを行うと、処理位置が高いほど花芽数が多くなることから(表1)、新たに台付けする場合は 100～120cm の高さとする(図1)。8年生株以降では台数が増える傾向が認められるため、本数を約 10 本に整理する処理を行うと、当年枝の花芽数が増加する。
3. 慣行の仕立て法により花芽着生が少ない既存株では、高さ 80～100cm の修正台付けを行うと、樹形改良によって減収することなく当年枝の花芽数が大幅に増加する(表1)
4. 慣行の仕立て法では平均の花芽数が少なく、花が咲かずに出荷できない枝も多いが、台付けにより「スノーボール」の当年枝の着花数が向上し、収量性の改善が期待できることから、栽培マニュアルを作成し、その仕立て法を図1に示す。
5. 切り枝抑制開花を行う場合、長さ約 75cm 以上、太さ 8 mm 以上の枝を萌芽期に収穫する。枝は約 1℃の冷蔵庫で切り枝用品質保持剤(ハイフローラ BRC 等)に生けると約 2ヵ月間の貯蔵が可能である(表2)。開花には高温とにならないよう遮光し、風通しのよい雨よけハウスを利用するのが適当である。
6. 開花品質は花房や葉の大きさが季咲き<sup>\*3</sup>開花より小ぶりだが(表2)、端境期出荷となるため、試算では約 1.4 倍の切り枝収入となる。
7. これらのことから切り枝抑制開花技術の概要を示す(表3)。

### [普及のための参考情報]

1. 普及対象:「スノーボール」生産者、出荷団体、農業改良普及員
2. 普及予定地域:北海道内の「スノーボール」栽培地域
3. その他:9年生以降の株については、新たに発生した枝で古い台を更新しながら約 10 本に整理する。

\*1 台付け:花木類の仕立て方の一つ。数本の主枝・亜主枝を地上0.5～1.5m程度で切って、当年枝を発生させる部位とすること。これらから発生する枝を収穫する。

\*2 当年枝:その年に新たに発生する枝。「スノーボール」は初夏に収穫してから発生し、翌年の収穫枝となる。

\*3 季咲き:温度管理等による開花調節を行わず、自然条件で咲くこと。

[具体的データ]

表1 「スノーボール」の台付け方法と当年枝の生育

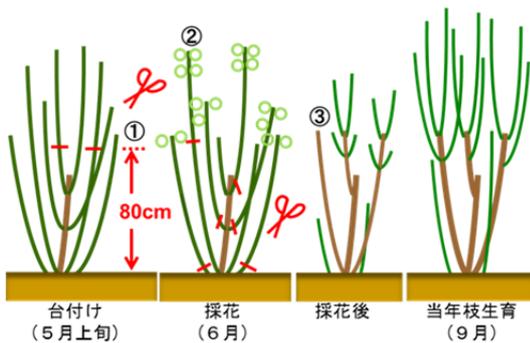
株齢 (試験年次)	3年生株 (平成22年)			4年生株 (平成23年)			5年生株 (平成24年)				同左【修正台付け区】		
	台数 (本/株)	枝数 (本/株)	花芽数 (個/枝)	台数 (本/株)	枝数 (本/株)	花芽数 (個/枝)	台数 (本/株)	枝数 (本/株)	花芽数 (個/枝)	花芽数 <sup>2)</sup> (個/枝)	台数 (本/株)	枝数 (本/株)	花芽数 (個/枝)
株元収穫 (現地慣行)	2.7 <sup>1)</sup>	17	2.4	0.0	29	0.4	0.0	35	0.8	-	7.5	31	6.8
収穫後 40cm台付け	2.4	19	3.0	5.5	23	3.5	7.0	32	3.9	-	7.7	35	8.2
萌芽期 40cm台付け	2.3	18	3.4	6.5	34	4.7	9.7	40	4.3	-	-	-	-
萌芽期 80cm台付け	2.0	21	3.5	7.0	31	5.7	7.8	36	5.4	-	-	-	-

株齢 (試験年次)	6年生株 (平成22年)			7年生株 (平成23年)			8年生株 (平成24年)				同左【修正台付け区】		
	台数 (本/株)	枝数 (本/株)	花芽数 (個/枝)	台数 (本/株)	枝数 (本/株)	花芽数 (個/枝)	台数 (本/株)	枝数 (本/株)	花芽数 (個/枝)	花芽数 <sup>2)</sup> (個/枝)	台数 (本/株)	枝数 (本/株)	花芽数 (個/枝)
刈りこみ (現地慣行)	8.0	46	0.8	10.0	64	0.6	-	-	-	-	8.7	23	4.5
80cm台付け	5.5	47	1.9	10.0	76	3.0	14.0	50	3.2	3.5	-	-	-
100cm台付け	-	-	-	-	-	-	14.0	53	3.5	3.9	-	-	-
120cm台付け <sup>1)</sup>	6.5	43	4.9	10.5	65	4.2	12.0	54	3.9	4.3	-	-	-

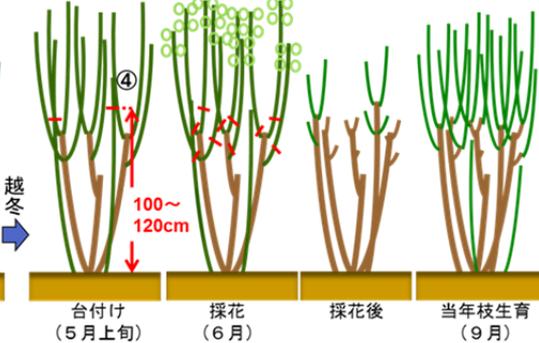
1) 収穫位置が本来の株元より高かったため、台付けとみなして調査した。 2) 太枠内は台数を約10本に整理した株での花芽数を示した。

【3年生株】



前年に発生した太い直立した枝を2本選び、萌芽期に高さ約80cmで台付けする①。株元から発生している長い枝は、高い位置で収穫して下の枝を残す②。

【翌年以降】



新たに発生した太い直立枝は100~120cmに台付けすると花つきがより向上する④。台付け枝①④や収穫時に残した長い下枝③は、数年かけて10本程度まで増やす。以降は、分岐のある古い台と更新しながら整理する。

図1 「スノーボール」の仕立て法

表2 「スノーボール」の切り枝貯蔵と抑制開花試験の結果

年次	採枝日		貯蔵条件				開花条件		枝の規格		開花調査			
	本数	供試本数	温度 (°C)	貯蔵終了日	貯蔵日数	開花場所	遮光	枝長 (cm)	枝径 (mm)	開花期日数	開花日数	花房径 (cm)	側枝長 (cm)	備考
22	5/10	10	1	6/4	25	温室	有	108	-	6/18	14	4.6	6.2	
	5/10	9	5	6/4	25	温室	有	104	-	6/14	10	3.9	6.8	萌芽が進み貯蔵期間短い
	5/10	9	10	6/4	25	温室	有	109	-	6/12	8	3.9	9.9	貯蔵中の徒長による開花不良
23	4/22	7	1	6/10	49	温室	有	68	8.4	7/3	23	3.7	7.7	花芽が硬く開花日数がかかる
	4/27	7	1	6/10	44	温室	有	66	7.2	6/29	19	3.9	6.7	
	4/27	7	1	6/10	44	ハウス	無	69	7.4	6/28	18	3.3	5.7	高温下での開花で品質低下
	6/8	8	-	-	-	露地	無	74	8.9	-	-	6.0	12.7	樹上の季咲き開花枝
24	5/2	11	1	7/5	64	ハウス	有	97	9.4	7/20	15	3.9	6.6	

表3 「スノーボール」の切り枝抑制開花技術の概要

時期	作業内容とポイント	時期	作業内容とポイント
4月下旬 ~5月上旬	<b>&lt;枝の収穫と貯蔵&gt;</b> ①花芽の殻が割れて萌芽が始まる頃に収穫する。 ②枝は長さ75cm・太さ8mm以上が目安で、花芽を持っている枝を収穫する。 ③収穫当日に1°Cの冷蔵庫へ搬入し、バケツに生けた状態で貯蔵する。 ④生け水は切り枝用品質保持剤 (ハイフローラBRC: 以下同じ) で、水深は10cm程度とする。	6月中旬 ~6月下旬	<b>&lt;開花作業&gt;</b> ①冷蔵庫から枝を出し、30~40%遮光した雨よけハウス等、風通しの良い場所に生けて置く。 ②生け水の水深は20cm程度にする。 ③2cm程度斜めに切り戻して生ける。 <b>&lt;開花目安&gt;</b> 20~15日後 <b>&lt;日常管理&gt;</b> ①生け水が減ってきたら補充する。 ②開花作業の10日目くらいに一度切り戻す。 <b>&lt;出荷&gt;</b>

(大宮 知)

[その他]

予算区分：経常研究

研究期間：2010~2012年度

研究担当者：大宮 知

平成24年度北海道農業試験会議 (成績会議) における課題名および区分

「ビブルナム「スノーボール」の栽培法と切り枝抑制開花技術」 (普及推進)